教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 講師　　氏名： 壽谷　静香

研究分野	研究内容のキーワード
音楽教育学	音楽科教育，保育・幼児教育（音楽表現），ミュージッキング，演奏不安
学位	**最終学歴**
修士（教育学）	岡山大学大学院教育学研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.保育者及び教員養成課程における音楽科及び表現領域専門科目の授業におけるアクティヴ・ラーニングの積極的導入	2018年4月1日～現在	保育者及び教員養成課程における音楽科及び表現領域専門科目の授業において，アクティヴ・ラーニングを積極的に導入し，学校園の現場及び地域との連携を密にした実践を行った。学校園における探究的な幼児音楽及び器楽・歌唱等の表現活動の実践を授業と連関させて実践的な学びを展開した。新型コロナウイルス感染症対策の観点にも鑑みて、遠隔教育システムを活用した複数大学や学校園との連携授業にも取り組んだ。
2 作成した教科書、教材		
1.Japanese voice-rhythm ensemble practice by using Gordon’s Instructional Template (IT): A Case in developing world music perspectives	2019年	ヴォイスアンサンブルの音楽活動のアプローチを示した。個の学び，少人数でのグループの学び，集団の学び，介在する大人の存在を枠組みとした幼児・児童対象の音楽活動を事例として示した。Shizuka Sutani, Richard, K. Gordon. pp. 137-164
2.Implementing the mixed instrumental ensemble practice by applying Instructional Template (IT) and flow assessment in Japanese music education.	2017年	我が国の伝統楽器や世界の楽器を組み合わせた表現領域の活動の提案など，融合的な実践事例を分析的に記述した。幼児・児童に多様な選択肢を準備することで，音楽の苦手意識の克服につなげることにも効を奏する視点が示されている。Shizuka Sutani, Taichi Akutsu, Richard K. Gordon. pp.188-212.
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.小学校・中学高等学校における音楽科教員としての勤務及び声楽家としての舞台経験	2005年-2016年	国公私立の小学校，中学校，高等学校でそれぞれ勤務し，教諭，音楽専科の教員として音楽教育の実務経験を積んだ。劇団四季俳優として在団中に『オペラ座の怪人』等に出演した。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.高等学校教諭専修免許状（音楽）平二九高第六六号	2018年3月31日	
2.中学校教諭専修免許状（音楽）平二九中専第五一号	2018年3月31日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.音楽活動及び研究活動を通した音楽による地域貢献及び国際交流	2015年現在	音楽活動及び研究活動を通した音楽による地域貢献及び国際交流に取り組んでいる。福武教育文化財団の助成を取得して岡山シンフォニー・ベルフォーレ津山でのミュージカルワークショップを主宰した。研究テーマでもある音楽教育のユニバーサルデザインを具現化すべく，岡山県下の特別支援学校や全国・国内外の学校園で音楽ワークショップを展開した。誰でも参加できる総合的な表現活動を試行している。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.Japanese voice-rhythm ensemble practice by using Gordon’s Instructional Template (IT): A Case in developing world music perspectives	単	2019年12月9日	Cases on Kyosei Practice in Music Education (IGI Global)分担執筆	米国の教育学の教科書の第10章を代表執筆した。我が国の伝統楽器や世界の楽器を組み合わせた表現領域の活動の提案など，画期的な実践が評価された。幼児に多様な選択肢を準備することで，音楽の苦手意識の克服につなげることにも効を奏した。Shizuka Sutani, Taichi Akutsu, Richard K. Gordon. 188-212
2.Japanese special high school students’ reflections on 9-11: Reflective practice of group violin instruction	単	2019年	Cases on Kyosei Practice in Music Education (IGI Global)分担執筆	通信制高校の音楽活動におけるヴァイオリンのグループ学習の中で、生徒等が自ら選択した教材に関する背景や各自の省察を通して、対話的で深い学びが展開されたプロセスを叙述した。同著のテーマでもあるともに学ぶ視点を強調した音楽教育の実践事例となった。Shizuka Sutani,、Taichi Akutsu、1-48
3.Implementing the mixed instrumental ;practice by applying Instructional Template (IT;flow assessment;in Japanese music education	単	2017年	Challenges Associated with Cross-cultural and At-risk Student Engagement (IGI Global)分担執筆	自身の中学校での音楽専科としての教員経験を活かして、混合楽器によるアンサンブルを行うことで苦手意識の克服につながった事例を理論と連関させて分析的に示した。Shizuka Sutani, Taichi Akutsu, Richard K. Gordon. pp.188-212.
2 学位論文				
1.オーケストラ奏者に見る演奏不安のライフヒストリー研究	単	2018年3月31日	岡山大学大学院教育学研究科（教科教育学専攻音楽教育コース）	プロオーケストラ奏者のライフヒストリーをもとに、演奏者がどの様に演奏不安と向き合い、対峙し、あるいは乗り越えたか、長期的な視点からプロセスを調査した。理論的な見地から不安や演奏不安、オーケストラ演奏について検討をくわえた。STAIを用いたオーケストラ奏者等の演奏不安の全般的傾向を示し、それぞれの奏者のライフヒストリーを演奏不安に着眼して構成し検討を加えた。
3 学術論文				
1.Mental Health of Preschool Teachers in Japan During the COVUD-19 Pandemic	共	2024年8月12日	SN Comprehensive Clinical Medicine 6(87)	新型コロナウイルス感染症の影響下で、日本の保育現場がどのように不安と対峙してきたか調査した。食事の援助場面等の社会的距離の保持やマスク着用などの具体的な方策、さらに情報源や情報共有のあり方など、課題が浮き彫りにされた。Volume 6、article number 87.
2.Inclusive elementary school musicking practice for Japanese special needs students: A narrative inquiry	単	2024年7月	Arts & Communication	特別な支援が必要な児童が在籍する日本の交流学級のミュージックキング実践事例を検証した。予期せぬ出来事に対応しつつ、音楽の直感的な関わり合いの特質を利用することによって、ミュージッキングをインクルーシブな実践的モデルとして、人間科学の視点から検証した。
3.音楽コミニティの形成を見据えたミュージッキング活動	単	2024年3月	『教育学研究論集』第19号武庫川女子大学教育学部、31-34	参加協働型アクションリサーチとして、実践者でもあり研究者である筆者が、人間科学の視点から自身の実践を省察した。ミュージッキングが、音楽コミニティの形成に寄与することを示した。
4.共生を具現化するミュージッキングの展開―『うたがみえるきこえるよ』を題材としたワークショップ―	単	2024年3月	『音楽教育学』	学会共同企画のワークショップの概要を報告した。53(2), 104-105
5.Observable flow experience in Japanese children’	共	2024年	Arts & Communication 2 (2)	多様な表現媒体が交錯する子どものための音楽活動の場面で、電子テクノロジーの楽器や伝統楽器等と子どもの接点を観察、評価した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
s interactions with musical instrument, digital interface instruments, violins and bells				
6.ミュージッキングに内在する実践共同体的性格に関する理論的検討	単	2023年	『美作大学短期大学紀要』（美作大学・短期大学）	ミュージッキングの実践を、諸理論、特に実践共同体や省察的実践家の思考と連関させ、音楽的コミュニケーションについて諸理論を連関させて考察した。壽谷静香、(56)77-80
7.へき地校のオンライン集合学習としてのミュージッキングの実践	共	2023年	『学校音楽教育実践論集』（日本学校音楽教育実践学会）	へき地校のオンライン集合学習としてのミュージッキングの授業実践事例を、質的研究の手法を用いて分析した。遠隔教育システムを活用した授業であったが、２地点それぞれの音楽活動の相違から相互に学ぶことで、対話的で深い学びが引き出せる視点が示された。壽谷静香（筆頭）他4名。6,36-37。
8.へき地校におけるミュージッキングの実践―複数のへき地校をオンライン会議システムで結んだ集合学習―	共	2023年	『へき地教育研究』（北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター）	距離の大きく離れたへき地の学校同士、さらに大学ともオンライン会議システムで結んだ形で、「連詩」「ふしづくり」および「ミュージッキング」の融合的な創作活動を試行し事例を検証した。壽谷静香（筆頭）他3名。77、31-43。
9.ミュージッキングの実践を通した共生の理念	共	2021年	『共生科学』（日本共生科学会）	日本の学校園におけるミュージッキングと諸理論、諸哲学、幼稚園教育要領及び学習指導要領の連関を踏まえて議論を深めた。壽谷静香（筆頭）他8名。12,13(98),55-67。
10.音楽教育分野の教員養成にみる専門性の課題：諸理論と幼稚園教育要領・学習指導要領等との連関を踏まえた検討	単	2021年	『美作大学短期大学紀要』（美作大学・短期大学）	音楽教育分野の教員養成にみる専門性の課題について、諸理論と幼稚園教育要領・学習指導要領等との連関を踏まえて検討を加えた。壽谷静香。(54)89-92。
11.Musicking to Embody Kyosei in the Framework of the Musical Theme and Variation	共	2021年	Proceedings of the 13th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research（環太平洋国際音楽教育学会）	変奏曲をテーマに日本の幼稚園で実践した表現領域の活動内容を、特にICTの活用について焦点化し事例を検証した。Shizuka Sutani（筆頭）他7名。6(80),479-484。
12.バレエ《くるみ割り人形》を題材にした学際的な音楽のコラボレーション	単	2020年	『音楽教育学』（日本音楽教育学会）	バレエ《くるみ割り人形》を題材にした学際的な音楽のコラボレーションの事例を省察した。絵本の物語や器楽、身体表現等の組み合わせで、参加協働型の音楽活動の実践事例を示すことができた。49(2)，63-64。
13.星槎アートキャンプに見る即興的で国際的な関わり合い：アートを通じた共生の具現化	単	2020年	『共生科学』（日本共生科学会）	音楽のみならず、言葉や身体表現、造形表現、さらに食を広くアートと捉え、学際的で総合的な表現領域の活動を試行し過程を示した。特に共に学ぶ相互の関わり合いを検証した。壽谷静香。(11)，147-15。
14.The Life History of Performance Anxiety in Japanese Professional Orchestral Players : A Case Series	共	2019年	Medical problems of performing artists	オーケストラにおける演奏案をライフヒストリー法をもって掘り下げた。いかにプロの演奏家が学習や演奏経験で不安をかかえ対峙しているか、検証した。34(2)，63-71
15.「ユニバーサルデザインの器楽合奏ワークショップ―伝統楽器とテクノロジーと	単	2019年	『音楽教育学』（日本音楽教育学会）	日本音楽共同企画として実施された，伝統楽器，テクノロジー，身体表現，言葉，造形表現を融合させた表現の新しいアプローチを示した。重度重複障害児も参加が可能となる実践事例を示した。48(2)，55-56。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
の共存をはかりながら一」				
16.ユニバーサルデザインの音楽教育：ミュージッキングの実践を通して	共	2019年	『共生科学』（日本共生科学会）	ミュージッキングの実践を通してユニバーサルデザインの音楽教育の実践的モデルが創発されたプロセスを検証した。実践研究者等が協働し、通常は参加が困難となる協力者がいかに音楽で関わり合うことができたか、またそのための工夫点をUDの理論をもとに検証した。壽谷静香（筆頭）他2名。10(76),67-77。
17.Contextual violin pedagogy for young children.	共	2019年	American String Teachers (AST) Journal	幼児の音楽活動場面で，リトミックや造形表現，身体表現等を組み合わせたヴァイオリン指導法を発表した。幼稚園教育要領の表現領域の内容に準じて実践を具体的に示している。Shizuka Sutani，他1名。4(67),56-59。
18.「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に働きかける幼児の自由遊びの観察と評価	共	2019年	『岡山県立大学教育研究紀要』（岡山県立大学）	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が幼児の自由遊びで観察される表現でどのように出現しているか，評価を行った。特にフローの客観的な評価を加えた。4(87),11-20
19.「つなぐ・かさねる」変奏曲を題材にした器楽合奏ワークショップ―伝統楽器とテクノロジーを融合させた合奏の試み―	共	2018年	『音楽教育学』（日本音楽教育学会）	テクノロジーと伝統楽器を組み合わせた器楽合奏を実践的に実践し報告した。 安久津 太一，壽谷 静香，筒石 賢昭山，中西 裕，中山 由美 47(2)，96-97
20.「保育者養成における『リズム・ダンス表現』発表への試み―実技系科目の協働による総合表現活動―」	共	2018年	『福岡女子短期大学紀要』	表現領域の中の身体表現，造形表現，音楽表現の教員等が協働して，学生参加型の総合表現の実践的モデルを開発した。 宮嶋郁恵，壽谷静香，他3名 84，41-52
21.幼稚園における「ミュージッキング」の実践：事例報告	単	2018年	『福岡女子短期大学紀要』	私立幼稚園での音楽ワークショップを事例報告として検証した。ミュージッキングの哲学を実践として具現化した。84，53-57
22.A technology assisted interactive musical project on Twinkle Twinkle Little Star in Japan	共	2017年	Asian Pacific Symposium for Music Education Research	テクノロジーを導入した認定こども園と保育者養成校等、校種間連携をテーマにアクションリサーチを展開し発表した。機器の活用や縦断的、横断的な関わりを促進するリハーサルの進め方など方法論を示した。 Shizuka Sutani，Taichi Akutsu，125-131
23.学校・こども園等の行事における音楽著作権の扱いに関する検討―陥りやすい著作権保護の盲点	共	2017年	『音楽教育実践ジャーナル』（日本音楽教育学会）	学校・こども園等の行事における音楽著作権の扱いに関する検討を加え、実践者の立ち位置から、陥りやすい著作権保護の要点と盲点を整理した。15，133-136 中西 裕，壽谷 静香，安久津 太一
24.ヴィヴァルディ「四季より春」を題材にした参加型ワークショップ―学際的なコラボレーションの試行―	共	2016年	『音楽教育学』（日本音楽教育学会）	ヴィヴァルディ作曲《四季》より「春」を題材に、身体表現・言葉・伝統楽器や声を組み合わせて学際的な音楽活動を報告した。42(2)，93-94 安久津 太一，桑原 和美，壽谷 静香，竹澤 栄祐，筒石 賢昭山，中山 由美，安居 総子
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.「弦」の響きを活かしたミュージッキング：アートとサイエンスの融合	共	2025年2月	日本学校音楽教育実践学会第18回北海道支部例会	ヴィバルディ作曲「冬」を題材にしたミュージッキングを、ワークショップ形式で試行し、さらにフロアと課題を議論した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
2.Musicking Practice for Kyosei Community Construction: A Case Study for Inclusion	単	2024年7月	PECERA 2024	東洋大学で開催された環太平洋国際乳幼児教育学会で、ミュージッキングがいかに共生コミュニティの構築に寄与するか、事例に検討を加えた。
3.音楽づくりの活動に生成AIと画像生成AIを援用する試みとミュージッキング	共	2024年2月17日	令和5年度日本学校音楽教育実践学会第17回北海道支部例会オンライン開催（北海道教育大学旭川校にて・一部対面）	生成AIと画像生成AIを活用してミュージッキングに供する歌の作成を行う試みを、口頭発表とワークショップを組み合わせて行った。
4.共生を具現化するミュージッキングの展開 エリックカール作『うたがみえるきこえるよ』を題材としたワークショプ	共	2023年10月14日	日本音楽教育学会第54回大会（弘前大会）	シンポジウム・ワークショップ パネルとして、ミュージッキングの実践を含む発表を行った。
5.Musicking workshop to build a kyosei community: A Tale of “My” Morning Glory	共	2023年8月	Asian Pacific Symposium for Music Education Research (APSMER) 国立ソウル教育大学	ワークショップによる国際学会発表
6.複数のへき地校をオンライン会議システムで結んだミュージッキングの実践	共	2022年	令和3年度日本学校音楽教育実践学会第15回北海道支部・第14回東北支部合同例会	複数のへき地校をオンライン会議システムで結んだミュージッキングの実践を示した。
7.へき地校のオンライン集合学習としてのミュージッキングの実践	共	2022年	令和4年度日本学校音楽教育実践学会第27回全国大会	遠隔会議システム（Zoom）を活用した、２校のへき地校同士の集合学習としての、ミュージッキングの実践に関する発表を行った。
8.《カノン》を題材にしたミュージッキング 遠隔会議システムを活用した事例の供覧を含むワークショップ	共	2022年	日本音楽教育学会第53回大会　国立音楽大学（オンライン開催）	異なる参加形態，音楽のジャンルや教科，地点を繋ぐ媒体としてミュージッキングの活動を位置づけ，ワークショップと事例の動画をパネルとフロアが省察した。
9.Musicking to Embody Kyosei in the Framework of the Musical Theme and Variation	共	2021年	The 13th Asia-Pacific Symposium for Music Education Research	変奏曲をテーマに日本の幼稚園で実践した表現活動の内容を踏まえて、事例を検証した。
10.MUSICKING: Online virtual workshop to combine multiple artistic expressions and soundscape on the theme of Beethoven’s ”Ode to Joy”	共	2020年	InSEA International Conference (Online)	変奏曲を題材に、米国の電子テクノロジーと音楽教育の専門家等とコラボレーションし、ワークショップを展開した。
11.Building peace in kyosei classrooms: Reducing societal conflict in arts.	単	2018年9月	Japan-US Teacher Education Consortium (University of Hawaii)	音楽がもたらす共生教育への影響を事例にもとづいて発表した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
12.ユニバーサルデザインの器楽合奏ワークショップ―伝統楽器とテクノロジーとの共存をはかりながら―	共	2018年	日本音楽教育学会岡山大学大会	日本音楽共同企画として実施された，伝統楽器，テクノロジー，身体表現，言葉，造形表現を融合させた表現の新しいアプローチを示した。
13.プロオーケストラ奏者を対象とした演奏不安のライフヒストリー研究Ⅱ　音楽学習と演奏場面の文脈をふまえた検討	単	2017年10月	日本音楽教育学会愛知大会（愛知教育大学）	修士論文のテーマである演奏不安に関して口頭発表を行った。
14.「つなぐ・かさねる」変奏曲を題材にした器楽合奏のワークショップ-伝統楽器とテクノロジーを融合させた合奏の試み	共	2017年	日本音楽教育学会第48回愛知大会（愛知教育大学）	身体表現や声，テクノロジーと伝統楽器を組み合わせて用いた器楽の実践を供覧形式で発表した。
15.The Seisa model of teacher license renewal program in Japan: An action research to design imaginative and creative model of teaching and learning.	共	2017年	JUSTEC日米教員養成協議会（ハワイ大学マノア校）	教員免許状更新講習を通じた共生をテーマにしたプログラムを実践研究として口頭発表した。
16.A technology - assisted interactive musical project on “Twinkle Twinkle Little Star” in Japan.	共	2017年	環太平洋国際音楽教育学会APSMER（マラッカ・マレーシア）	テクノロジー支援がいかに校種間連携と音楽的コミュニケーションに貢献したか，口頭発表した。
17.幼小大連携：ミュージカルプロジェクトにおけるテクノロジー支援	共	2017年	日本音楽教育学会中四国例会（エリザベト音楽大学）	幼小大連携のコラボミュージカルの事例を口頭発表した。
18.An investigation ofperformance anxiety in professional orchestra in Japan	単	2016年	The 27th Annual Conference of theMid-Atlantic Popular & AmericanCulture Association (MAPACA)	オーケストラ奏者の演奏不安に関するライフヒストリー研究をアメリカの学会で口頭発表した。
19.フロー理論に基づいた音楽教育の実践的研究-FIMAを用いた幼児のヴァイオリン学習の観察-	共	2016年	日本教育心理学会（高松市）	コロンビア大学で開発されたフロー観察法を用いた研究をポスター形式で発表した。
20.プロオーケストラ奏者を対象とした演奏不安のライフヒストリー研究	単	2016年	日本音楽教育学会（横浜国立大学）	演奏不安をライフヒストリーの中で捉えた質的研究を口頭発表した。
21.ヴィヴァルディ「四季より春」を題材にした参加型ワークショップ-参加型ワークショップの試行-	共	2016年	日本音楽教育学会（横浜国立大学）	身体表現や言葉，声，伝統楽器を組み合わせた学際的な音楽活動を共同企画として実践した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
22.箏とヴァイオリンによる中学校音楽授業の早期プロトコール	単	2016年	日本音楽教育学会中四国例会（香川大学）	箏とヴァイオリンを組み合わせた器楽授業を事例研究として口頭発表した。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.100周年のリレーコンサート	共	2023年11月13日	倉敷中央病院	100周年のリレーコンサートにゲスト出演した。
2.5・6年「鑑賞」特別授業及び演奏会	単	2023年7月	北杜市立須玉小学校	佐藤学氏によるギターと共演
3.みんなでたのしむコンサート	単	2022年12月	ベルフォーレ津山	福武教育文化財団教育文化助成を得て、参加型の企画を執り行った。
4.親子で楽しむコンサート	単	2021年12月	ベルフォーレ津山	福武教育文化財団教育文化助成を得て、参加型コンサートが実施された。
5.『くるみ割り人形』テクノロジーと音楽のコラボ・ワークショップ	単	2020年8月	岡山県総合グランドクラブハウス（岡山市）	『くるみ割り人形』を題材に、絵本の読み聴かせやダンス、電子テクノロジーや楽器体験を展開した。福武教育文化振興財団教育文化助成を得て実施された。
6.「ユニバーサルデザインの参加型ミュージカル『くるみわり人形』」企画・指導及びゲスト出演	単	2019年3月	岡山シンフォニーイベントホール（岡山市）	福武教育文化振興財団及び教育弘済会岡山支部の教育文化助成を得て実施された。
7.徳島市出来島保育園育児講演会	単	2019年2月	出来島保育園（徳島市）	育児に関する講演及びソプラノ独唱を担当した。
8.鳴門聖母幼稚園音楽会	単	2019年2月	鳴門聖母幼稚園（鳴門市）	幼児を対象としたワークショップ形式の音楽会を実施した。
9.徳島市出来島保育園育児講演会	単	2018年2月	出来島保育園（徳島市）	講演及びソプラノ独唱を担当した。
10.Cristofori Music Master Class	単	2018年2月	シンガポールCristofori Music	マスタークラスのゲスト講師を務めた。
11.就実大学共同企画コラボ・ミュージカル公演学生指導及び出演	単	2018年1月	就実大学アリーナ（岡山市）	ゲスト出演及び教育学部初等教育学科授業内での演技・歌唱指導を担当した。
12.Music Education Lecture & Workshop	単	2017年11月	ニューヨーク大学(NYU)Steinhardt School of Culture, Education, and Human Development	レクチャー及びワークショップの講師を担当した。
13.Shizuka Sutani Soprano Recital	単	2017年11月	フロリダ州グレーターマイアミ寺院	ソプラノ独唱（リサイタル）を開催した。
14.ひかり幼稚園音楽鑑賞会	単	2017年8月	学校法人ひかり学園ひかり幼稚園	参加型音楽鑑賞会の企画・主演
15.ユニコンサート　ソリスト　日本福音ルーテル岡山教会	単	2017年5月	日本福音ルーテル岡山教会	ソプラノ独唱
16.就実森の学校「春の訪れコンサート」ソリスト	単	2017年4月	就実・森の学校（岡山市）	ソプラノ独唱
17.Music Education Lecture & Workshop	単	2017年	フロリダ州マイアミNew World Symphony	レクチャーとワークショップ講師を担当した。
18.就実大学教育実践研究センター講演会「ミュージカルオペ	単	2016年12月	就実大学アリーナ（岡山市）	ゲスト出演及び演技・歌唱指導

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
ラとクラシックの調べ」ソリスト				
19.第13回吹奏楽コンクールにて瀬戸中学校吹奏楽部の指揮	単	2016年8月	倉敷市芸文館大ホール（倉敷市）	指揮及び音楽指導
20.ニューヨーク大学(NYU)「インターナショナル合唱フェスティバル」	単	2016年3月	星槎大学高尾キャンパス（東京都）	ゲスト出演
21.劇団「新制作座」『万国旗の子』スミ役独唱で出演	単	2015年8月	セシオン杉並 3日間公演他（東京都）	演劇のゲスト出演及び独唱
22.りそなクラシックバンクコンサート　ソリスト	単	2012年12月	りそな銀行大阪本社ビル講堂（大阪市）	ソプラノ独唱
23.劇団「新制作座」『万国旗の子』スミ役独唱で出演	単	2011年11月	川崎市教育文化会館（川崎市）	演劇のゲスト出演及び独唱
24.ノヴァーラサマーコンサート　ソリスト	単	2011年8月	ノヴァーラ市教会他（イタリア）	ソプラノ独唱
25.カンポリエート市オペラ『椿姫』 ヴィオレッタ役、『愛の妙薬』アディーナ役	単	2010年8月	カンポリエート（イタリア）	オペラ(演奏会形式)への出演
26.アートグレイスチャペルコンサート	単	2009年7月	アートグレイス心斎橋チャペル（大阪市）	ソプラノ独唱
27.ピッコレニンフェコンサート	単	2008年8月	兵庫県立芸術文化センター小ホール（西宮市）	ソプラノ独唱
28.オペラ『ラボエーム』ムゼッタ役	単	2007年8月	オスティアサマーフェスティバル他（イタリア）	オペラへの出演
29.イタリアミュージカル『ルガンディーノ』ロゼッタ	単	2007年3月	大阪音楽大学ミレニアムホール（豊中市）	ミュージカルへの出演
30.劇団四季ミュージカル『オペラ座の怪人』他	単	2005年～2007年	劇団四季海劇場（東京都）	ミュージカルのキャスト
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.遠隔教育を活用したミュージッキングの実践的モデル開発	共	2020年現在	科学研究費　基盤研究（C）（日本学術振興会）	本研究は、Christopher Small(1998)が提唱した「ミュージッキング」の哲学を遠隔支援下で実践する。特に過疎地域をテレビ会議で繋いで、音楽的コミュニティの創生を目指す。研究者等が遠隔支援下において開発した、ミュージッキングの活動とその創生過程を検証し、特に若い世代と高齢者、音楽経験や知識技能も異なる参加者の関わり合い促進に、遠隔支援下でのミュージッキングの実践が、どのように有効・有用であったか、明らかにする。
2.福武教育文化振興財団教育文化助成	単	2019年～2022年	福武教育文化振興財団	福武教育文化振興財団教育文化助成の助成を得て参加型ミュージカルを通して、岡山市内のみならず特に岡山県県北地域（真庭市、津山市）の教育文化振興に貢献した。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2022年8月31日現在	日本学校音楽教育実践学会会員
2.2020年4月1日現在	日本共生科学会会員
3.2020年4月1日2022年3月31日	日本質的心理学会
4.2014年4月1日現在	日本音楽教育学会